

記載例

様式第 5 号(第 4 条関係)

- ☒ 炉 ☐ 厨房設備 ☐ 温風暖房機 ☐ ボイラー
☐ 給湯湯沸設備 ☐ 乾燥設備 ☐ サウナ設備 ☒ 設置
☐ ヒートポンプ冷暖房機 ☐ 変更
☐ 火花を生じる設備 ☐ 放電加工機
- 届

〇〇年〇〇月〇〇日									
苫小牧市消防長 様									
届出者 住所 苫小牧市新開町 2 丁目 1 2 番 7 号 氏 名 苫小牧消防社 連絡先 代表取締役 消防 太郎 0 1 4 4 - 5 3 - 9 1 1 9									
防 火 対 象 物	所在地	苫小牧市新開町 2 丁目 1 2 番 7 号				電話 0 1 4 4 - 5 3 - 9 1 1 9			
	名 称	苫小牧消防社				主要用途	1 2 項イ 工場		
設 置 場 所	用 途	作業所	床面積	※〇〇㎡		消 防 用	1 0 型消火器 1 本		
	構 造	鉄骨造	階 層	1 階			※床面積は火気設備の届出の留意事項【別紙】を参照。屋外の場合は記入不要		
届 出 設 備	設備の種類 鉄鋼溶解炉								
	着工(予定) 〇〇年〇〇月〇〇日				完成(予定) 〇〇年〇〇月〇〇日				
	設備の概要 アルミニウムを溶解する炉								
	使用する燃料、熱源、加工液	種 類	都市ガス (1 3 A)			使用量	2 5 5 kW 2 0 ㎡(N)/h		
	安 全 装 置		別紙、概要表に記載						
取 扱 責 任 者		職 工場長			氏 名 消防 二郎				
工 事 施 行 者	住 所	苫小牧市〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号 電話 〇〇-〇〇〇〇							
	氏 名	〇〇株式会社 代表取締役 消防 三郎							
※受付欄					※経過欄				

備考

- 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とすること。
- 2 法人にあつては、その名称、代表者氏名、主たる事務所の所在地を記入すること。
- 3 「階層」の欄には、屋外に設置する設備にあつては「屋外」と記入すること。
- 4 「設備の種類」の欄には、鉄鋼溶解炉、暖房用熱風炉、業務用厨房設備等と記入すること。
- 5 「設備の概要」の欄に書き込めない事項は、別紙に記入して添付すること。
- 6 「使用量」の欄には、火花を生じる設備及び放電加工機以外の設備にあつては、1 時間当たりの入力を記入すること。
- 7 □印のある欄には、該当の□印に✓を付けること。
- 8 ※印の欄は、記入しないこと。
- 9 当該設備の設計図書を添付すること。

炉・温風暖房機・ヒートポンプ冷暖房機・ボイラー・乾燥設備・給湯湯沸設備概要表

設備種別		☒ 炉 ☐ 温風暖房機 ☐ 簡易ボイラー (☐ 蒸気 ☐ 温水 ☐ 貫流) ☐ ヒートポンプ冷暖房機 ☐ 乾燥設備 ☐ 給湯湯沸設備 (真空式ボイラー等含む)	
工事種別		☐ 新設 ☐ 増設 ☐ 移設 ☒ 取替え ☐ 改造 ☐ その他	
設置場所		☒ 1 階 ☐ 屋上 ☐ 屋外	
設置室	構造	入力合計 ☒ 350kW未満 ☐ 350kW以上	
		不燃区画 [☐ 有り ☒ 無し] 壁 [☐ 耐火 ☐ 準耐火 ☐ 不燃 ☒ その他] 床 [☐ 耐火 ☐ 準耐火 ☐ 不燃 ☒ その他] 天井 [☐ 耐火 ☐ 準耐火 ☐ 不燃 ☒ その他] 開口部 [☐ 防火設備 ☒ その他] ケーブル、配管の貫通処理 (☐ 不燃材料による処理 ☒ その他) 換気 (☒ 自然換気 ☐ 機械換気 ☐ F D 付)	
		内装 壁 [☐ 不燃材料 ☐ 不燃認定材料 ☒ その他 ☐ 無し] 天井 [☐ 不燃材料 ☐ 不燃認定材料 ☒ その他 ☐ 無し]	
		燃焼空気 ☒ 自然吸気 給気口位置 (床面から 0.3 m) ☐ 給気ファン 給気ファン位置 (床面から _____ m)	
設備概要		製造社 (苫小牧消防本部社) 機器型式 (119 型) 大きさ [奥行 2 m × 幅 2 m × 高さ 1.5 m] (据付面積 4 m ²)	
熱源種別		☐ 電気 ☒ 都市ガス (☐ 6 B ☒ 1 3 A) ☐ LPG ☐ まき ☐ 石炭 ☐ 灯油 ☐ 軽油 ☐ 重油 ☐ その他 (_____)	
入 力		_____ 255 _____ kW	
安全装置		☒ 炎監視装置 ☐ 空だき防止装置 ☐ 自動温度調節装置 ☒ 過熱防止装置 ☐ 停電時安全装置 ☒ 自動ガス遮断装置 ☐ 感振装置 [製造会社 () 型式 () 設置位置 ☐ 本体 ☐ 室内]	
燃料配管		材質 (☒ 鋼管 ☐ 銅管 ☐ その他) 配管方法 (☒ 露出 ☐ 埋設 ☐ 隠ぺい)	
燃 料 タ ン ク		☒ 無し ☐ 屋外 ☐ 本体内蔵 ☐ 屋内…たき口までの距離 (_____ m) メインタンク (_____ l) サービスタンク (_____ l)	
煙 突 排 気 筒 風 道 等		排気温度 (☐ 260℃以下 ☒ 260℃を超える) 風道 (☐ 有 ☐ 無 ☐ F D 付) 構造 (☐ 給排気筒 ☒ ダクト ☐ 排気筒 ☐ F D 付) 排気方式 (☒ 機械 ☐ 自然) 貫通部構造 (☐ めがね石 ☒ 金属以外の不燃材料 ☐ その他) トップ構造 [☐ 多翼型 ☐ H型 ☒ 陣笠 ☐ ベンド ☐ ストレート ☐ エルボ 45° ☐ エルボ 90° ☐ ウォールトップ ☐ その他 (_____)]	
耐震措置		機器の固定方法 ☒ アンカーボルト ☐ 溶接 ☐ その他 () 機器の配管の接続方法 ☒ 溶接 ☐ ねじ接続	
消火設備		☒ 消火器 ☐ 大型消火器 ☐ 不活性ガス消火設備 (☐ 固定式 ☐ 移動式) ☐ ハロゲン化物消火設備 (☐ 固定式 ☐ 移動式) ☐ 粉末消火設備 (☐ 固定式 ☐ 移動式) ☐ その他 (_____)	
備 考			

入力合計 350kw 以上は、
不燃区画室を必要とする
場合があります。

【少量危険物の届出が必要な場合】
1日あたりの燃料消費量又は内蔵タ
ンクの燃料の数量
重油：400ℓ以上
灯油、軽油：200ℓ以上

※項目中□欄は、該当するものをレ印又は■でアンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

記載例

様式第5号(第4条関係)

☐ 炉 ☐ 厨房設備 ☐ 温風暖房機 ☒ ボイラー
☐ 給湯湯沸設備 ☐ 乾燥設備 ☐ サウナ設備 ☒ 設置 届
☐ ヒートポンプ冷暖房機 ☐ 変更
☐ 火花を生じる設備 ☐ 放電加工機

大気圧式(無圧式)及び
真空式ボイラーは
給湯湯沸設備に該当する

〇〇年〇〇月〇〇日 苫小牧市消防長 様					
届出者 住所 苫小牧市新開町2丁目12番7号 氏名 苫小牧消防社 代表取締役 消防 太郎 連絡先 0144-53-9119					
防火 対象物	所在地	苫小牧市新開町2丁目12番7号		電話 0144-53-9119	
	名称	苫小牧消防社		主要用途	15項 事務所
設置 場所	用途	工場	床面積	※〇〇㎡	消防用 10型消火器 1本
	構造	鉄骨造	階層	2階	※床面積は火気設備の届出の留意事項【別紙】を参照。屋外の場合は記入不要
届出 設備	設備の種類 温水ボイラー				
	着工(予定)		〇〇年〇〇月〇〇日	完成(予定) 〇〇年〇〇月〇〇日	
	設備の概要 建物の暖房用のボイラー				
	使用する燃料、熱源、加工液	種類	灯油	使用量	480kW 50ℓ/h
	安全装置		別紙、概要表に記載		
取扱責任者		職 工場長	氏名 消防 二郎		
工事 施行者	住所	苫小牧市〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号 電話 〇〇-〇〇〇〇			
	氏名	〇〇株式会社 代表取締役 消防 三郎			
※受付欄			※経過欄		

備考

- この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
- 法人にあつては、その名称、代表者氏名、主たる事務所の所在地を記入すること。
- 「階層」の欄には、屋外に設置する設備にあつては「屋外」と記入すること。
- 「設備の種類」の欄には、鉄鋼溶解炉、暖房用熱風炉、業務用厨房設備等と記入すること。
- 「設備の概要」の欄に書き込めない事項は、別紙に記入して添付すること。
- 「使用量」の欄には、火花を生じる設備及び放電加工機以外の設備にあつては、1時間当たりの入力を記入すること。
- 印のある欄には、該当の□印に✓を付けること。
- ※印の欄は、記入しないこと。
- 当該設備の設計図書を添付すること。

炉・温風暖房機・ヒートポンプ冷暖房機・ボイラー・乾燥設備・給湯湯沸設備概要表

設備種別		☐ 炉 ☐ 温風暖房機 ☒ 簡易ボイラー (☐ 蒸気 ☒ 温水 ☐ 貫流) ☐ ヒートポンプ冷暖房機 ☐ 乾燥設備 ☐ 給湯湯沸設備 (真空式ボイラー等含む)	
工事種別		☒ 新設 ☐ 増設 ☐ 移設 ☐ 取替え ☐ 改造 ☐ その他	
設置場所		☒ 2 階 ☐ 屋上 ☐ 屋外	
設置室	構造	入力合計 ☐ 350kW未満 ☒ 350kW以上	
		不燃区画 [☒ 有り ☐ 無し] 壁 [☐ 耐火 ☐ 準耐火 ☒ 不燃 ☐ その他] 床 [☐ 耐火 ☐ 準耐火 ☒ 不燃 ☐ その他] 天井 [☐ 耐火 ☐ 準耐火 ☒ 不燃 ☐ その他] 開口部 [☒ 防火設備 ☐ その他] ケーブル、配管の貫通処理 (☒ 不燃材料による処理 ☐ その他) 換気 (☒ 自然換気 ☐ 機械換気 ☒ F D 付)	
		内装 壁 [☐ 不燃材料 ☒ 不燃認定材料 ☐ その他 ☐ 無し] 天井 [☐ 不燃材料 ☒ 不燃認定材料 ☐ その他 ☐ 無し]	
		燃焼空気 ☒ 自然吸気 給気口位置 (床面から 0.3 m) ☐ 給気ファン 給気ファン位置 (床面から _____ m)	
設備概要		製造社 (苫小牧消防本部社) 機器型式 (119 型) 大きさ [奥行 2 m × 幅 2 m × 高さ 2 m] (据付面積 4 m ²)	
熱源種別		☐ 電気 ☐ 都市ガス (☐ 6 B ☐ 1 3 A) ☐ LPG ☐ まき ☐ 石炭 ☒ 灯油 ☐ 軽油 ☐ 重油 ☐ その他 (_____)	
入 力		_____ 480 _____ kW	
安全装置		☒ 炎監視装置 ☒ 空だき防止装置 ☐ 自動温度調節装置 ☐ 過熱防止装置 ☐ 停電時安全装置 ☒ 自動ガス遮断装置 ☒ 感振装置 [製造会社 (苫小牧社) 型式 (119 型) 設置位置 ☒ 本体 ☐ 室内]	
燃料配管		材質 (☒ 鋼管 ☐ 銅管 ☐ その他) 配管方法 (☒ 露出 ☐ 埋設 ☐ 隠ぺい)	
燃 料 タ ン ク		☐ 無し ☒ 屋外 ☐ 本体内存蔵 ☒ 屋内…たき口までの距離 (3 m) メインタンク (490 ℓ) サービスタンク (100 ℓ)	
煙 突 排 気 筒 風 道 等		排気温度 (☒ 260℃以下 ☐ 260℃を超える) 風道 (☐ 有 ☒ 無 ☐ F D 付) 構造 (☐ 給排気筒 ☐ ダクト ☒ 排気筒 ☐ F D 付) 排気方式 (☒ 機械 ☐ 自然) 貫通部構造 (☐ めがね石 ☒ 金属以外の不燃材料 ☐ その他) トップ構造 [☐ 多翼型 ☐ H型 ☐ 陣笠 ☐ ベンド ☐ ストレート ☐ エルボ 45° ☐ エルボ 90° ☒ ウォールトップ ☐ その他 (_____)]	
耐震措置		機器の固定方法 ☒ アンカーボルト ☐ 溶接 ☐ その他 (_____) 機器の配管の接続方法 ☒ 溶接 ☐ ねじ接続	
消火設備		☒ 消火器 ☐ 大型消火器 ☐ 不活性ガス消火設備 (☐ 固定式 ☐ 移動式) ☐ ハロゲン化物消火設備 (☐ 固定式 ☐ 移動式) ☐ 粉末消火設備 (☐ 固定式 ☐ 移動式) ☐ その他 (_____)	
備 考			

大気圧(無圧式)及び
真空式ボイラーは給湯
湯沸設備に該当する。

入力合計 350kw 以上は、
不燃区画室を必要とする
場合があります。

【少量危険物の届出が必要な場合】
1日あたりの燃料消費量又は内蔵タ
ンクの燃料の数量
重油：400ℓ以上
灯油、軽油：200ℓ以上

※項目中□欄は、該当するものをレ印又は■でアンダーライン部分には該当する内容を記入すること。

火気設備の届出の留意事項

※床面積	・火気設備を<u>設置する室の面積</u>を記入してください。 ・大規模な工場などの200 m²以上の区画室に設備を設置する場合は、消防本部予防室に確認後に記入してください。 ※屋外の場合は記入不要
------	---

火気設備の届出の添付図書

添付図書	① 概要表 ② 建物の案内図 ③ 建物の平面図（設備の設置位置の明示） ④ 設置室の詳細図（壁や天井、扉や窓の構造（防火設備等）） ⑤ 設備仕様書 ⑥ 消火設備等の配置図（消火器、粉末消火設備等） ⑦ その他必要と認められるもの ※同一室内に他の火気設備（炉・ボイラー・給湯設備等）が設置されている場合は、その位置・種別・能力を明示してください。
------	--

火気設備概要表の記入要領

設備種別	大気圧式（無圧式）及び真空式ボイラーは構造上、給湯湯沸設備に該当します。
工事種別	新設 従前設けられていないものを新たに設けることをいう。 増設 構成機器・装置等の一部を付加することをいう。 移設 構成機器・装置等の全部又は一部の設置位置を変えることをいう。 取替え 構成機器・装置等の一部を既設のものと同等の種類、性能・機能等を有するものに交換することをいう。 改造 構成機器・装置等の一部を付加若しくは交換し、又は取り外して設備の構成、機器、性能を変えることをいい『取替え』に該当するもの除く。 その他 上記以外。
設置室	同一室内の設備入力合計が350 kW以上となる場合は、不燃区画室を必要とする場合があります。 不燃区画室の内装にて不燃認定材料を使用している場合は、不燃認定番号等を平面図に明示するか資料を添付してください。
設備概要	危険物を燃料とする場合、 <u>1日当たりの燃料消費量又は内蔵タンクの燃料の数量</u> が指定数量の5分の1以上となる場合には、『少量危険物貯蔵、取扱届』の提出が必要となります。 ※『少量危険物貯蔵、取扱届』の提出が必要な場合の例 重油：400ℓ以上 灯油、軽油：200ℓ以上